

板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

※令和3年度については7月末現在の件数となります。

1 受付場所別の内訳

受付場所	令和2年度	令和3年度
虐待防止センター	15	8
福祉事務所（3ヶ所）	1	3
健康福祉センター（5ヶ所）	0	1
障がい者福祉課/障がい政策課	8	4
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	7	0
合 計	31	16

2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和2年度	令和3年度
障がい者本人	8	8
家族・親族	3	1
近隣住民・知人	0	1
福祉サービス関係者	10	4
医療関係者	2	0
行政・教育機関	4	0
その他（労働局、警察、元支援員等）	4	2
合 計	31	16

3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
人数	6	2	12	6	13	8	0	0

4 虐待者の内訳

虐待者	令和2年度		令和3年度	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	13	5	7	1
障害者福祉 施設従事者等	12	2	5	0
使用者	3	2	0	0
その他	3		4	
合 計	31	9	16	1

5 令和2年度、令和3年度 通報・相談のうち、虐待認定したケース事例※抽出（虐待程度については、「資料4-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	身体的	自宅で暴れる本人に対し、拘束し、薬を過剰に投与した。	<p>【緊急性：無】</p> <p>本人の安全が既に確保されていたため、緊急性無しと判断。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>調査の結果、暴れる本人に対し、長時間の拘束行為や過剰な投薬によって身体の動きを抑制する行為が認められたため、虐待有りと認定。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>心身の生命、健康に影響が生じているため「保護の検討」を要する。</p> <p>【対応】</p> <p>養護者の介護負担軽減のため養護者支援を検討。養護者の意向、家庭環境等を勘案し、ケース会議を重ねたうえで、在宅生活を継続していくことが困難であったため、施設入所支援に繋げた。</p>
2	養護者	身体的	養護者が酒に酔い、就寝中の本人の胸倉を掴むなどの行為を行った。	<p>【緊急性：有】</p> <p>生命が危険にさらされる可能性があるため、警察に通報。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>警察が見守り家庭として一定期間、継続対応することとなった。警察調書に基づき、内出血等はないが、胸倉を掴む行為などを認めたため、虐待有りと認定。</p> <p>【虐待程度：軽度】</p> <p>本人に対し一時的に暴行行為が認められたため、「継続的、総合援助」を要する。</p> <p>【対応】</p> <p>福祉サービスの利用意向はないため、福祉事務所総合相談係の相談員に情報提供し、今後の対応について引き継ぐとともに、経過を見守り中。</p>
3	養護者	経済的	グループホームに入所している本人の通帳から、養護者がキャッシュカードを使用し、年金や預貯金を数回にわけて無断	<p>【緊急性：無】</p> <p>グループホームでの生活は引き続き確保されており、預貯金は引き出されたが、本人の支払い等に影響がない範囲であったため、緊急性は無しと判断。</p> <p>【虐待認定：有】</p>

			で引き出した。	<p>調査の結果、養護者が無断で引き出したことを認めたため、虐待有りとは認定。</p> <p>【虐待程度：軽度】</p> <p>生活費等の支払いが滞ることはなかったが、承諾なく使用したことから「継続的、総合的援助」を要する。</p> <p>【対応】</p> <p>お金の管理について明確化し、養護者には返済を求めた。</p>
--	--	--	---------	--

6 令和2年度、3年度 通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例※抽出

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	心理的	同居の養護者から言葉の暴力を受けているので、やめさせて欲しい。	<p>【緊急性：無】</p> <p>本人の意向としてすぐに分離を求めておらず、生命の安全性は確保されているため、緊急性は無しと判断。</p> <p>【虐待認定：有無を判断できない】</p> <p>事実確認のため、調査を実施。本人、養護者との言い分に大きな差異があり、一方的にどちらかに非があるとは認められず、面会を重ねたが、双方の発言内容から虐待の判断に至らなかった。</p> <p>【対応】</p> <p>養護者には、ささいな言葉でも傷つくことがあるので、注意を促した。本人の日常的な相談支援体制を構築するとともに、今後は本人の意向を確認しながら、グループホームの体験等を通し、一人暮らしに向けて支援体制を整えていく。</p>
2	福祉施設従事者等	心理的	施設職員が、夜間に眠れない利用者に対して、睡眠薬の処方をすすめるなど、不適切な発言があった。	<p>【緊急性：無】</p> <p>該当施設を既に利用していない状況であったため、緊急性無しと判断。</p> <p>【虐待認定：有無を判断しない】</p> <p>事業所の支援体制が要因のため、虐待の判断はしない。</p> <p>【対応】</p> <p>事業所の苦情受付と指導検査の担当所管である障がいサービス課認定給付係に情報提供し、対応を引き継ぎ、事業所に指導を行った。</p>